見つけてください。見つめてください。

「新潟の魅力」

新潟にゆかりのある
4人の方から
思いを語っていただきました

出来上がった観光地にはない、整備されすぎていないよさが、新潟にはある。

南場智子　新潟市出身

株式会社ディー・エヌ・エー 代表取締役会長

出来上がった観光地というよりも、そうなっていない良さがあると思います。知人が魚沼に大好きな場所があって週末のたびに来るんです。普通の田園風景なんですよ。そこで子どもが走り回ったり、古い民家が宿に改装されたようなところに泊まる。まさに普通の風景で観光地化されていないので、最高だと言うんです。

ほかにも新潟の山は、けっこう有名な山でもそんなに整備されていない。標識らしきものはあるけれども、小屋に行っても人がいないところがあったり。でも、そこが非常に良かったりする。そんな良さが随所にあると思います。

photo by Miao Yamamoto

長い日本海の海岸線と山脈。新潟の地形学的なインセンティブをいま、活かすべき。

北川フラム　上越市出身

アートディレクター

新潟県は大陸にもっとも近い県です。このインセンティブの使い方がインバウンドの鍵です。世界と繋がりやすい場所にあるという地形学から見た普遍的な価値をしっかり考えるべきです。そのひとつが新潟県に接する日本海です。沈む夕陽と合わせて、決定的なコンテンツです。冬の荒波も印象的です。この海岸線の長さは、うまく武器にできるはずです。あとは雪。東南アジアからオーストラリアなど訪日客への有効な観光資源になります。

眠っていたものを磨いて光り輝かせていく。それこそが新潟観光の切り札になると信じています。

吉川真嗣　村上市出身

千年鮭きっかわ 代表取締役社長（国交省認定 観光カリスマ）

元からある魅力は、もう既に光っているわけですよ。これからは新しい魅力を発掘していく。その魅力が積み重なって、「新潟というところはおもしれえ県だな」と思われるようになったらいいわけですよ。

そのためには眠っていたものに何かの切り口を設けて、それを光輝かせていく、磨きをかけていく、ということです。それを今私がやっているのが「にいがた庭園街道」です。これは新潟観光の切り札だと言いながらやっています。

「ここにしかない」ローカルな魅力や住んでいる人たちの地域への愛がグローバルに通じる。

尾畑留美子　佐渡市出身

尾畑酒造 専務取締役

グローバリゼーションという時代においては“ここにしかない魅力”を磨くことが大切。佐渡は離島だからこそ独自の多様性ある自然や文化、歴史が育まれ、朱鷺がいる。加えて、住んでいる人に佐渡愛が溢れているんですよね。地域の魅力は住んでいる人が醸し出す熱量もあって、訪れる人はそこにも反応するんです。最近、海外から来島した人たちもたくさんの佐渡愛という“ここにしかない魅力”に触れて、観光を越えたつながりが生まれています。